

パイプ曲げ加工、板金加工メーカー

BUSYU
BUSYU KOGYO CORPORATION



武州工業株式会社 DX戦略2023

2023.01.10制定

2023.03.09改定

武州工業株式会社

代表取締役社長 林 英徳



デジタル技術の進展により、世界全体がつながり相互に大きな影響を受けている今日、社会の変化は驚くほど速く、そして劇的です。

デジタル技術は、日々の仕事の効率を向上させるだけでなく、便利で価値の高いサービスを世の中にもたらしました。これからも、更に進化していくでしょう。

私たち武州工業は、金属パイプ加工・板金加工を中心に東京青梅で事業を営んでまいりました。国内で地域雇用を守り安い海外部品に対抗できるように、社内にシステム部隊を配置し、いちはやくAIやIoT、VR等のシステム開発を行い、「よい設計、よい流れ」を実現するためのユニークな生産体制、技術開発、しくみ構築、人材育成に努めてきました。

武州工業は、目指すべきビジョンを『モノづくりで世の中の課題にチャレンジし続ける会社』と決めました。

人の活動が続く限り、課題は無くなりません。課題を解決するためのモノづくりも世の中から必ず必要とされます。私たちは、これまでつちかってきた「よい設計、よい流れ」のノウハウを活かして、『誰もやっていないことを具現化する』、これを「武州テック」と名付け、全社員で実現しようと考えています。

武州工業のノウハウを必要とするすべての企業、ビジョンに共感を頂ける方々と共にモノづくりで世の中の課題を一緒に解決していきたいと考えています。



【ミッション】

環境・地球・人に優しい300年続くモノづくりの会社

- 私たちは、モノづくりという武州工業のDNAを大切にしながら、将来を見据えて世の中の課題をE(環境)S(社会)G(ガバナンス)の3つの面で解決する「環境・地球・人に優しい300年続くモノづくりの会社である」ことを目指します。

【ビジョン】

モノづくりで世の中の課題にチャレンジし続けて、価値を創出する会社として持続的な成長をめざします。

これまで武州工業がつちかってきたモノづくりの技術、人材、しくみ、システム開発技術をフルに活用して、お客様のお悩みを「よい設計、よい流れ」で解決する「武州テック」事業を立ち上げ、誰もやっていない事を具現化し、社会に貢献してまいります。

- 「武州テック」事業は、お客様企業のお悩みや課題をお聞きし、整理整頓したうえで、武州工業のモノづくり・ノウハウ・システムを駆使して全体最適の解決を提供するサービスのことです。これらの実績や知見をデータベース化し、スピーディに対応できるように常にブラッシュアップしていきます。



武州工業は、経営ビジョン及びビジネスモデルを達成するために、パイプ加工技術やノウハウを基盤とし、AI、IoT、VR等のデジタル技術を駆使することにより、社会やお客様のお困りごとを、「よい設計、よい流れ」で解決する「武州テック」事業を2025年までに立ち上げます。

お客様企業や社会のニーズに対応し、高い付加価値を生み出す日本のモノづくり企業として継続的に発展するために、以下のDX戦略を立案しました。

①「よい設計、よい流れ」を核にすえたお客様サービス&製品の提供

お客様の受注、見積、契約、企画、設計・製造、納品、請求、運用までの一連の業務フローを「よい設計、よい流れ※」にデザインし直し、全社での情報共有、部門間連携及びデータ分析を進め、スピーディで高品質なサービス及び製品を提供します。

※「よい設計、よい流れ」とは、デザイン思考に基づいてデジタル機器を有効に活用して全体最適の視点で設計された仕事の仕方のことです。武州工業では「よい設計、よい流れ」のやり方で「一個流し生産」(セル生産方式)体制を構築し、スマホセンサーやIoT機器、クラウドを利用してリードタイムを短縮した少量多品種生産を実現しています。このノウハウを活かして、お客様企業に導入したIoT機器等から得られたデータ分析を実施し改善提案していくことが「よい設計、よい流れ」の考え方です。

よい設計、よい流れ

TIME IS MONEY: タイムスタンプの利用



リードタイム: 材料リードタイム
 生産リードタイム
 総合リードタイム等

➡ リードタイム短縮活動

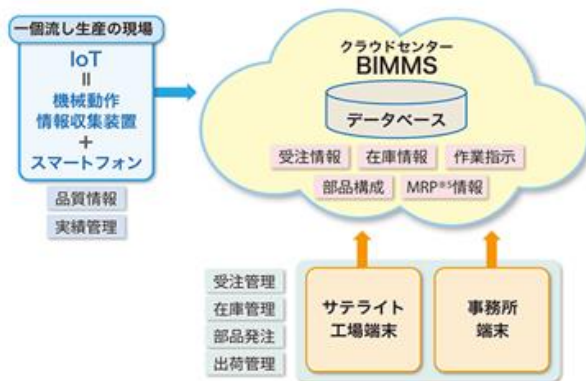
【よい設計、よい流れ】で実現できること
 ・発注から納品までのリードタイムを短くし、過不足なく製造することで製品在庫を多く持たず、在庫管理にかかるコストを削減することができます。このノウハウを利用して他の業種にも応用が出来ます、支援をすることができます。



②社内システム統合による業務改善

現場管理(BIMMS※)システム、受発注システム及び会計システムの統合によって、インボイス制度、ペーパーレス、業務効率の向上を推進します。

※「BIMMS」とは、Busyu Intelligent Manufacturing Management Systemの略で、武州工業独自の生産管理システムのことです。このBIMMSの導入によって、リアルタイムに現場の4M(人man:作業時間等、設備machine:稼働状況等、材料material:材料ロット等、方法method:加工手順等)の状況を把握することによって「ムリムダムラ」を発見し、改善を繰り返すことで生産性を向上させることができます。この「生産情報管理、生産情報管理システム及び生産方法」は「特願2020-077379」で特許査定が完了(2023.01.31)。



【BIMMS】によって実現できること

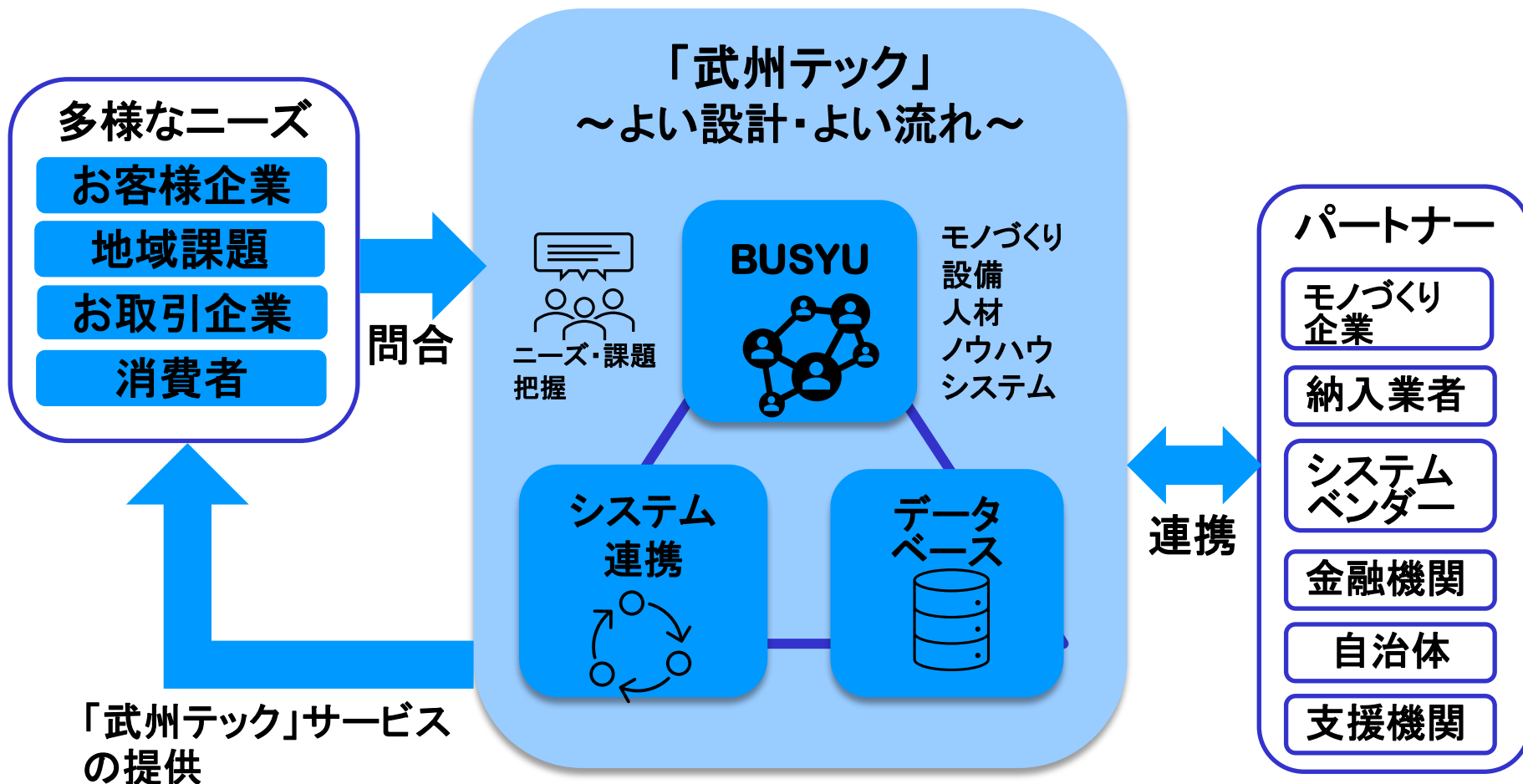
- ・ BIMMSは、受注管理、倉庫の在庫管理、品質管理、不良分析、生産実績管理から生産指示まで幅広く管理する情報共有システムとなっています。
- ・ BIMMSでは、IoTによってリアルタイムに現場の4M変動(人、設備、材料、方法)状況や実績を時系列で把握をする事が可能となり、「ムリムダムラ」の削減につながり、改善を繰り返すことで生産性をさせる事が出来ます。

③デジタル人材の育成

多様化する社会課題やデジタル技術の進展に対応できるデジタル人材を計画的に育成し、そのナレッジを社内で共有化します。

④外部システムとの連携

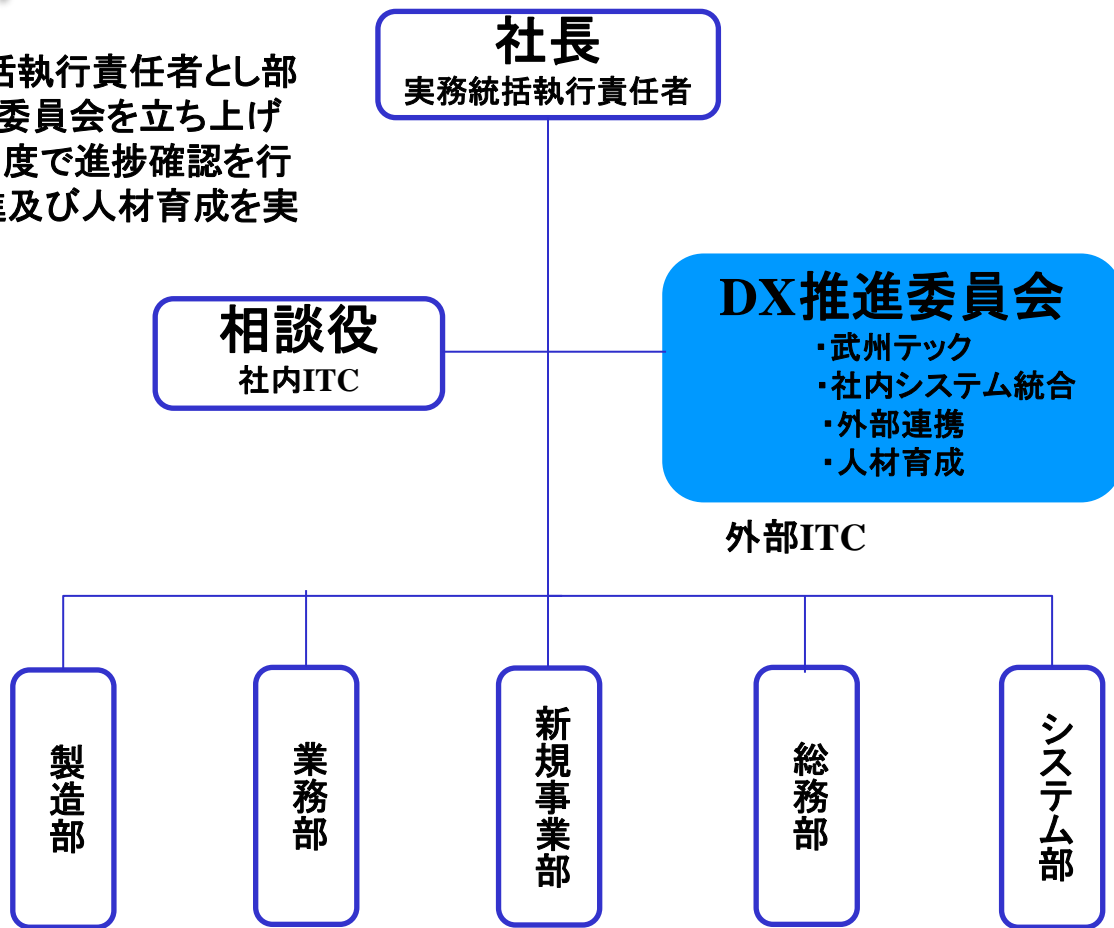
共通EDI等によるお客様との情報共有を推進し、さらなる品質・コスト・納期の向上を図ります。





DX推進体制

■社長を実務統括執行責任者とし部門横断のDX推進委員会を立ち上げ各チームごとに月度で進捗確認を行いながら、DX推進及び人材育成を実践していきます。





武州工業は、経営ビジョン達成のために毎年売上の3%の投資を行い、以下のITシステム及びデジタル技術活用の環境整備を進めます。

①「武州テック」事業に利用するアプリ開発及びシステム・DB構築

お客様からの問合せを受付け、課題把握、企画提案、支援・納品、運用までの「武州テック」事業を行うために必要なアプリ開発及びシステム構築を行います。また、これらの実績やノウハウをデータベース化し、データ分析することによって武州テックの精度をスパイラルアップします。

②社内レガシーシステム環境の整備

既存で利用している自社業務管理システム(BIMMS)、受発注システム及び会計システムを見直したうえで連動し、情報共有や電子帳票に対応することにより社内業務の生産性向上を図ります。

③外部取引先との情報連携

セキュリティを担保しながら、外部取引先との情報共有するためのプラットフォームを構築しスムーズな製品・サービスの提供を目指します。



DX戦略	実施項目	KPI	評価方法
①武州テック事業の開始／アプリ開発及びシステム・DB構築	<ul style="list-style-type: none"> ・武州テック事業 ・展示会出展 ・アプリ開発 ・システム構築 ・DB構築 ・データ解析 	2025年までに5件受注 2025年までに6回 2025年までに10個 2024年に完了 2023年に完了 2023年より開始	DX推進委員会内の武州テックチームによる月度会議で進捗評価を行い、改善する。
②社内レガシーシステムの見直し及び統合	<ul style="list-style-type: none"> ・BIMMS見直し ・受発注システム見直し ・会計システム見直し ・システム統合 ・紙帳票の電子化 	2023年:完了 2025年:完了 2024年:完了 2025年:完了 2023年:完了	DX推進委員会内の社内システム統合チームによる月度会議で進捗評価を行い、改善する。
③外部取引先との情報連携	<ul style="list-style-type: none"> ・共通EDI検討・導入 ・外部取引先とのプラットフォーム構築 ・セキュリティ対策 	2025年:完了 2025年:完了 2024年:完了	DX推進委員会内の外部連携チームによる月度会議で進捗評価を行い、改善する。
④デジタル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・武州カレッジの受講(13項目) 武州DX教育 ・外部教育の受講(ITコーディネータ、データサイエンティスト等) ・デジタル人材の育成 (AI技術、データ解析、VR) 	2023年に着手し、2025年までに武州DX教育を受講したデジタル人材を10名育成する。	DX推進委員会内のデジタル人材育成チームによる月度会議で進捗評価を行い、改善する。

社長によるDX推進メッセージ

武州工業は、1951年の創業以来、金属パイプ加工・板金加工を強みとして、ITやノウハウ、技術を駆使して「よい設計、よい流れ」を追求しながら、モノづくり企業として事業展開してまいりました。

武州工業は、日本のモノづくり企業が経験した戦後高度成長期、その後のバブル崩壊、リーマンショック、新型コロナウイルス禍等、天地がひっくりかえるような劇的な変化の中でも、国内モノづくり企業として生き残ってきました。これは、先代から受け継ぐ武州イムズをモノづくりの現場で具現化し、新技術を取り入れながら、社員とともに時代の荒波に立ち向かってきたからだと思います。

私は2020年に武州工業の3代目として会社を受け継ぎ、今騒がれているデジタル・トランスフォーメーションの意義や武州工業のDXの方向性について、幹部メンバーとともに考えてみました。武州工業の強みは何か？当社がやるべきことは何か？3日間の宿泊合宿でとことん話し合った結果、武州工業が取り組むべきは「モノづくりで世の中の課題にチャレンジし続ける」ことであるという結論に達しました。

世の中の課題とは何か？武州工業がそれをどう解決するのか？は、誰もやっていない未知なるものへのチャレンジであり、具現化であります。大きなリスクを伴うチャレンジではありますが、これが武州工業らしさであり、これから目指すべき姿であると考えています。今回は、この取り組みをDX戦略書としてとりまとめました。

興味をもっていただいた方は、ぜひ、お声掛けください。楽しみにしております。

2023/1/9

武州工業株式会社
代表取締役社長 林 英徳



自己診断評価シート2022.10.10提出



帳票2b-1

対象 成熟度3以上の企業 集計対象企業数 158 件

サマリ

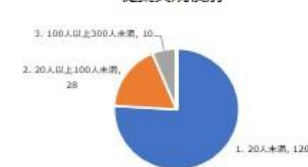
現在の平均値は、3.32で全社戦略に基づく継続的实践に近いレベルである。
DX推進の枠組みの全体平均との差は、**事業への落とし込み、人材育成・確保**が大きくプラス。
IT構築の枠組みの全体平均との差は、**IT資産の仕分けとプランニング、ガバナンス・体制**が大きくプラス。
目標の平均値は、4.74で継続的实践からグローバル市場のデジタル企業を目指している。

回答内訳

売上規模別



従業員規模別



定性指標

現在

平均成熟度 3.32



DX推進の枠組み (平均成熟度3.34)

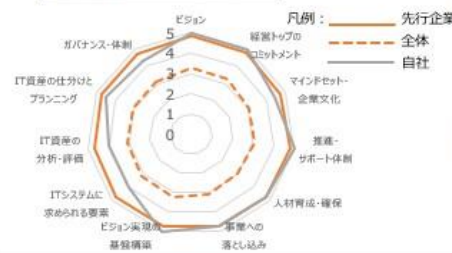
トップ項目	成熟度	ワースト項目	成熟度
1 事業への落とし込み	3.7	1 評価	2.9
2 戦略とロードマップ	3.6	2 投資・予算配分	3.0
3 持続力	3.6	3 KPI	3.1

ITシステム構築の枠組み (平均成熟度3.30)

トップ項目	成熟度	ワースト項目	成熟度
1 事業部門のオー	3.4	1 全社標準	3.2
2 データ活用の人材	3.4	2 ガバナンス・体制	3.2
3 人材確保	3.4	3 ロードマップ	3.2

目標

平均成熟度 4.74



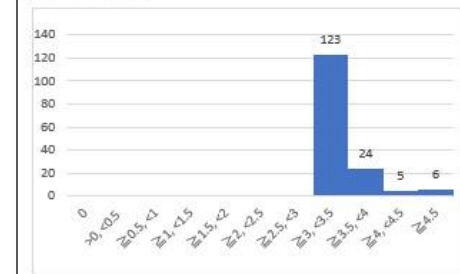
DX推進の枠組み (平均成熟度4.74)

トップ項目	成熟度	ワースト項目	成熟度
1 ビジョンの共有	4.8	1 パッケージ・オンプレ	4.6
2 危機感共有	4.8	2 評価	4.6
2 マインドセット・企	4.8	3 投資・予算配分	4.6

ITシステム構築の枠組み (平均成熟度4.74)

トップ項目	成熟度	ワースト項目	成熟度
1 スピード・アジリティ	4.8	1 ロードマップ	4.7
2 データ活用の人材	4.8	2 ガバナンス・体制	4.7
3 事業部門のオー	4.8	3 廃業	4.7

成熟度別回答分布



定量指標

回答件数が多い指標

	回答件数	回答割合
DX人材(事業)の数	90	57%
DX人材(技術)の数	89	56%
DX人材育成の研修予算	86	54%
新規顧客獲得割合	24	15%

2022/10/31時点データ



SECURITY ACTION 2つ星宣言

2022.7.19 自己宣言ID 40090306255